

令和7年度第2回静岡県産業教育審議会 会議録

日時：令和7年4月22日（火）
午後 2 時 から 4 時 まで
場所：静岡県男女共同参画センター第3会議室

○事務局（向中野班長）

本審議会は、会議規則の第3条第2項に、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができないとあり、本日の審議会は、12人の委員中現在11人御出席をいただいているので、審議会が成立している。

1 教育監あいさつ

- ・ 委員の皆様方には、前回の協議におきまして、「専門高校等におけるこれからの時代に対応した産業教育の在り方」について、広く課題を御提示いただき、審議の方向性を示していただいた。その後、その審議の方向性を受けまして、各専門部会で審議をしてきた。
- ・ 本日は、その1つ目の視点、「社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成」につきまして、委員の皆様から御意見をお願いしたいと思っている。
- ・ これからの社会を担う人材育成に向けて、産業教育が果たすべき役割を、改めて見つめ直したいと考えている。
- ・ 特に、各学科の専門性を深く掘り下げると同時に、学科横断的な掛け合わせによる新たな学びの可能性、これを探求していきたい。予測困難な未来を見据え、専門分野を越境した将来を見据えた掛け算によって、生徒たちが社会の変化に柔軟に対応できる時間を育むことが重要だと考えている。
- ・ そのためには、学科の枠を超えた学びの実現が不可欠であり、各専門学科の学びだけではなく、産業教育全体としての議論を通じて、より効果的な教育のあり方を追求していく必要があると考えている。
- ・ 委員の皆様の自由な発想とそれぞれの専門的な知見を融合させることで、新しい発想が生まれることを期待している。
- ・ 各分野を貫くキーワードやテーマを見出すことによって、より横断的で深い学びへとつなげていきたいというふうに考えている。本日は、忌憚のないご意見、ご提言をお願い申し上げます。

2 事務局説明

(1) 第1回会議録

- ・ 前回の会議録についての説明（事務局説明資料1から9ページまで）

(2) 全体説明（貝瀬指導監）

- ・ 次第 4ページ「資料4」と「別紙1」を使用し、全体説明を行った。
- ・ 資料4：第1回審議会の共通提言は、各委員の皆様からいただいた各分野における現状の課題、それを解決するために必要な提案などをまとめた。
- ・ 別紙1：今までの産業教育審議会の全体会と専門部会、それから視点ア、今後の視点イ、ウといったものを全てこの1枚に取りまとめてみたものが、この図のイメージになっている。
- ・ 本日の審議の方向性は、10年後の未来を見据え、各専門部会からの提案について、「目指すべき姿にあげた人材を育成する方向性が妥当であるか」、「改善の方向性、具体的な方策は妥当であるか」について、ご審議をお願いしたいと考えている。

- ・ 次回の審議内容、視点イ「県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成」を踏まえてのご意見をいただけたら大変ありがたく考えている。

(3) 各部会説明

事務局説明資料 資料3 11ページから22ページについて、各部会で協議された検討の視点Aについて説明した。

(説明者 農業・水産―平尾指導主事 工業―山口指導主事 商業―片井指導主事 家庭・福祉―朝比奈指導主事)

3 議事「各部会説明に対する各委員からの意見(質疑含む)」

○川田委員

・各部会からご説明をいただきました。ご質問も含めて、ご意見や感想でも結構ですので、ご発言をお願いできればという風に思います。

○上野委員

・その理解が間違えてなければ、多分、各部会でまとめていただいているところで話し合われていますので、皆さん、すごい活発なご議論されて、こういった多くの項目を挙げていただいたんだなというところで、すごいことだなと。また、こちらに説明していただいているので、2回説明していただいているので、恐縮です。

・その中での話なんですけれども、多分、前回のところで、私はちょっと理解不足かもしれませんが、多分、各部門で集めた意見を統合して話をしていこうということだと思うんですけど、難しいのは、その会のあり方だと思うんですけど、「学びのシナジー」ってなった時に、各項目で議論をして、持ち上げていくと、なんか割と、各項目で盛り込まないとみたいになるので、シナジーというよりは、どう盛り込んであげるのかみたいなことに集中しがちになるんじゃないかなと思ってね。何が言いたいかっていうと、ちょっと項目が多分多くなりすぎるのかなっていうのを思いまして。例えば、結構国の答申なんかでもよく言われることなんですけど、なんかむちゃくちゃ多いみたいな、100ぐらいのもみたいなことは結構あるので、やはり個人的には、すごく盛り込んでいただいているんですけど、共通キーワードを見つけて3つぐらいとかにしないと結構厳しい。もちろん多く盛り込むっていう手もあると思うが、そのところは。ただ、各部会でやられているということはどう盛り込んであげるのかっていう、顔を立てないともあると思いますので、そのあたりのところは結構難しい調整なのかなと思いつつ、でも答申は顔を立てるのが目的じゃないので、多分そういうところはやっぱり何か共通項を見せて、項目ごとを統合して行って、統廃合をして行って、最初のお題のようなところは、3つぐらい立てて、統合できそうな話も結構あるなと思うので、4つとか5つではなくて、3つぐらいに統合していくというのが分かりやすいかなと思っています。まず1つのあり方かなとは思っています。

・あともう1つは、結構DXという言葉が出てきたんですけど、皆さんがDXをどういう風に理解されているのかなっていうところの共通認識が必要かなとは思いました。なぜかという、みたいな感じで、結局のところ、DX推進っていうのは、経済産業省がDXって進めてやったんですけど、基本的にはデジタル化で事業変革を行うみたいなことを結構大きな意味をやっているんですけど、中小企業の方とかに聞かれると、DX進めていますっていうと、うちは全部pdfにしましたとか、最近では会計ソフトを入れましてとかいう話になってしまうので、となると、DXの温度感、DXって入れたら取ればいいみたいな感じ、温度感じゃなくて、で、何をしますかっていうところをもうちょっと具体化させないと、パワーワードみたいな、DX、DXって言っても、DX、何するのかっていう風に思い浮かんでしまったので、具体的に、何を

するのかっていうところがよりブレイクダウンしたやつが必要かなと。

・あとは、全体的に言うと、あんまり生成AIみたいな話がほとんど出てこなかったなどは思っていて、一部、16ページとかの工業教育の方にクラウド環境、生成AI等を意識したみたいなことかなと、ちょっと思っていますけど、割と、なんかAIエージェント、ここはやっぱり生成AIとではありまして、多分、大学の教育現場から見るとかなり使っている学生が多いので、もう今はなんか、レポートの課題も、生成AIを使うこと、前提として、こっちも課題を繰り返さないといけないうのは、日々の課題の、レポートの現場で、もし、あえて使わせるかみたいな話もあって、いわゆる、生成AIだったりとか、将来的に出てくるAIエージェントですね、AIで全部やらせてしまおうみたいなのが出てきますので、そういった時に、おそらくどういった倫理っていうか、AIとかを使う時の倫理観を持って使うかみたいなことがむしろ問われるのかなと。そういったところはおそらくここでの共通語になってくるのかなと思っています。

・あとは細かい点ですけど、16ページのSTEAM教育っていうところで、イノベーションを生み出せる人材を生み出すことを目的にした、従来の科学教育、技術教育を統合した、統合体系化した教育っていうんですけど、どこの引用から引っ張ってこられたのかなって、ちょっとわからない。STEAM教育って、どっちかっていうと、今までの理数系教育っていうよりは、統合的な教養教育、リベラルアーツも含めた統合教育が必要だよっていうようなニュアンスで使われているのであって、私は、なんか理数系教育っていうと、なんか理系とか偏った話であったので、こういった話ではないだろうっていう話ですね。

・あともう1つは、これは国の教育、いわゆる文科省が出している書類との関係性ですけども、結局、文科省とかはOECDとかを参考にして、コンピテンシーとかコンパスとか、まあちょっと横文字のオンパレードで難しいんですけども、いわゆる基礎能力的なところが大事だよみたいなことを出していますので、文科省の資料とかもちょっと意識しながら構成された方が、より説得力が帯びるとか、例えば、こういったことを言っているけれども、国があって県があって、その国のバックにはOECDとか、そういうのもありますので、そういったことを意識して統合的に考えていくと、より説得力が増すかと思っています。

・もう1つは、気にしているのは、多分色々盛り込んで、それぞれ重要だと思うんですけど、説得力を帯びたみたいな形で結構書かないと、なんか結局書いても、答申一生懸命書いてくださいましたになりかねないので、そういうところは、どういう風に伝えるように書くかなっていうのは、会計の専門なので、会計っていうたら、いかに退屈な話を伝えるようにやるのかってことなので、その辺のところはありました。

私の方からは、現状気づいた点は以上になります。

○豊田委員

・私、自分が障害者の施設をやっているっていうところもあるので、ちょっとこう全体的に見た時に、特別支援学校の教育についてはどんなふう考えられているのかなっていうところと、実際、うちの施設もそうなんですけれども、特別支援学校の生徒さんの実習みたいなものを、もう年間で、何回も受け入れするんですね。もう特別支援学校高校3年生だったら、必ずどこかの施設に属する。属せない方もいらっしゃるんですけども、そういった意味では、中学生の時から、職場見学もやっています、早いと小学校のお母さん方が夏休みにも見学に来られるんですね。就労というところをすごく意識して、親子ともに動いているんですが、お母さん方がみんな言うのが、情報がないうところと、自分で探しなさいって言われましたっていうところと、その、実際お子さんがですね、その就労の現場に合っているか合っていないか、特性が掴めていなかったりとか。学校の先生方も特性がつかめてなかったりするんで、この専門性を深めることも大事だと思うんですけども、1つ、ちょっと特別支援学校もこの中に盛り込んでほしいなと。これ、今ちょっと見ていたとこ、どこに入るかなというのを感じました。なので、少しそこも含めて考えてもらいたいなと、この専門

性のところとか、産業教育のあり方というところですね。

・どうしても今回、もうロボット化とか色々書いてあるんですけども、農福連携なんかはマンパワーで動かしているところがすごくありまして、私たちの施設もどちらかというとマンパワーで、ロボットとか機械で対応できないところをマンパワーでやっていて、そこにそういう子たちが活躍する現場がある。それが実際農家さんたちにすごくありがたられているってところで、彼らの社会的な自立に繋がってってところもありますので、そういうなんか農福連携とかも含めて考えていくと、今度、その農福連携の世界の中で、やっぱりコーディネーターが必要であったりとか、そういうロボットが必要であったりとかっていう、ちょっと視点を変えると、もっと広い意味で色々考えていけないのかなと思ひまして、ちょっとそこ、1つ、このどこに入っているのかとかで、今後なんかそこは検討していただけるのかどうかってところも提起したいなという風に思いました。

・もう1つは、今回、このいろんな部門の皆さんの施設整備、施設とか設備の整備ってというのがどの部もあげられていたと思うんですけども、どこからお金を持ってくるのかなとすごい思ひまして、どこに言ったらお金がこんな出てきて、高校にこの設備、対応した設備とかが設定されるのかなってというのが、ちょっと全体的に気になったところではありますので、あの地域で実際すごい設備を持っている会社さん、企業さんとかもいっぱい施設もあると思うので、連携していくってのが1番いいのかなと思うんですけども、連携を含めた時に中学校、また県立の農林専門職学校とか大学校なども含めて、その産業教育ってもののあり方をみんなで検討していった方がいいのではないかなという風に感じました。以上です。

○齋藤委員

・ご説明、色々ありがとうございます。ちょっと教えていただきたいんですけども、資料の方の後ろに各部会がございまして、専門分野ごとに分かれていると思うんですけども、最後に5番目として共通部会があると思います。今回、このご提案された内容というのは、どんなふうに議論されてきて出てきたのかなって。上野先生の疑問と同じかもしれませんけども、皆さん一緒に議論されたのかなってのはちょっとわからないんですね。結局、出てきていることはほとんど同じだと思いますので、みんな同じ問題を抱えていると。ただ分野が違うだけなんですよね。その分野をどうまたがっていくのかってということがすごく大事だと思いますので、頭に当たり前のような疑問が出てきているんじゃないか。今の最後の施設の問題もそうだと思います。どこでも問題なんですよね。それをどうやって解決するの。どこからお金持ってくるの。すごく共通だと思います。これは大学の経営でも同じで、非常に我々も苦しんでいるところですので、同じかなと思って聞いているんですけども。

・その一方で、今日ご提案された内容は、どちらかというと先生方が一生懸命考えて、先生の立場、教員の立場で考えていることなのかなって思ってしまうんですね。じゃあ、実際、社会・現場はどうなっているの。その意見は聞かれたのかなってというのは、ちょっとわからないですね。DX、DX、当然必要かもしれません。でも、実社会で本当にどこまでやっているんですか。そこが必要なんじゃないのかなって気がしてしまうんですね。

・あとは、実際、生徒の感覚と言いますか、先生方が一生懸命こうだよこうだよって、生徒側がそれを、生徒がそれを受け入れないと、なかなかそのコミュニケーションは難しいと思いますので、あの生徒がどう思っているか、もちろん、先生方が実社会を勉強してきて、いや、こうなんだよ、ああなんだよって教えることはものすごく大事なんですけども、本人がどう思っているかっていうことをまず気づかせるってことがすごく大事なんじゃないかなと思うんですね。

・そういう意味では、これ全てに共通すると思うんですけども、家庭、家でどういう勉強されているのか、家

で親がどう対応しているのかということが、全てに共通すると思いますね。親が、いや、これこういう問題だよねとかいう話をすれば子供も気づくんですけど、それは、学校でやる教育じゃないんだって思うかもしれませんが、いかにそれを家庭でやってもらえるように仕向けるかっていう、変な話ですけども、そこをやはり皆さんに考えていただいて、多分悩んでいることは全部同じで、たまたま農業なのか水産なのか商業なのかって違うんじゃないかなと思います。

・いずれもやはりコーディネーターって言葉が出てきますので、それを取りまとめる人が必要だよ。じゃあそれ先生が誰がやるの、っていうことで、そこも非常に問題になっていますね。先生方ができることには限りがあるので、それを超えてやれる人が必要だっていうご提案だと思いますけども、じゃあ現実的にそれは産業界の人にやってもらうんですか、大学がやるんですか、どこがやるんですか。そこはなかなか見えてこないですね。

・ちょっと色々あるんですけども。まずはその2つですね。どうやってこう決められたかっていうことと、全体的な取りまとめっていうところをどうお考えなのかなっていう2点でございます。

○事務局

今回こちらの資料に挙げられた内容は、各専門部会がそれぞれ単独で審議したものです。ただし、共通する項目としては、資料に記載されている高度化・複雑化への対応、教員の育成、設備の整備の3点のみが共通しています。それぞれの目指す姿については各部会で提案されたものとなっております。

また、事務局としては生徒や保護者の考えについては、まだ調査ができていない状況です。

以上となります。

○齋藤委員

・そうしますと、今のお話では、目指す姿は各部会で検討されて、それに対する1、2、3は全体共通のところで議論されたということ。そういう中で、答えが同じになるというのは、当たり前なのかなと思うんですけど、そうすると、なんかこう分けて書く必要があったのかなっていう気もしてしましまして。本来だったら各部会の皆さんが、それぞれこれ全部を検討した方が良かったんじゃないかなと思いますけど。ちょっと余分なことかもしれませんけど。

○飯倉委員

・説明ありがとうございました。ちょっとお聞きしていて、上野先生もおっしゃっていましたが「未来志向の学びのキーワード」というお題ですけど、もう少しビジョンをいじった方が、みんな向かいやすいのかなと思いました。色々考えていたのですが、例えば、静岡県全体、知の拠点化というテーマにし、それがビジョンとしてあり、ミッションとしては日本中の農業でも工業でも商業でも最先端をやっている方々にオンラインでもいいので登壇していただき、それをこう取りまとめるコーディネーターとかがいればいいと思います。ただそれをDX化していかないと大変になってしまうので、DX化していきましょうみたいなところに落とし込んでいけばと思います

・さらに全体的に少しこれアジャイルというか、6割、7割ぐらいで動きながら、改善点があったら変えていくというスタイルでないと未来志向になっていかないと感じます。企業もスマホのアプリをアップロードさせ改善、改善しているので、未来志向の学びというのもアジャイル式にした方が良かったと思いました。

・あと皆さんがおっしゃっていたように、DXとかIoTとかっていう言葉がたくさん出てくるんですけど、なんかそのデジタル化をして今までやっていたことが3割ぐらい作業量が減ったとして、大体の企業でもそうな

んですけど、その空いた3割にまた仕事を埋めるので、何も効率化が図れず、結局ずっと100じゃないかみたいな話になるので、その効率化をした部分に対しての何をするのかを考えなきゃいけないですし、元々デジタル化するっていうのは人間の作業量を減らすためにやっているんで、そこはちょっと、みんなで検討するというか、そもそも昔は手書きで経理とか会計をやっていたのに、今は excel とか会計ソフトがあって、でも作業量は減っていないというか、なんか他のことやっているんで、仕事は8時間なら8時間でずっとやっているんですけど、それをこう改善するっていうことも考えられるかなと。

・あとは、コーディネーターとか、産学連携推進と書かれているんですけど、うちの企業でもプロジェクト的に20人ぐらいの講師を派遣してみようと今検討しています。例えば三菱UFJさんとかも農業に参入し始めているし、エヌビディアとクボタが連携して農機具を開発していたり、本当に世界中でいろんなことが起きていて、それを生徒達に教える、知らせることが大切であり、将来的には知識と経験の総量で色々なことが決定していくので、なるべく早く、いろんなことを伝える場を作っていければなっていうのは同意ですので、ぜひやっていただければと思います。以上です。

○西村委員

・ネットで全国の専門教育の取組について検索したところ、好事例もいくつか見つかりました。県内でも焼津水産高校の取組は注目されているようです。今日校長もご出席されているようなので、どんな取組をしているか伺いたいです。

○事務局

・焼津水産高校なんですけども、企業ですとか色々なところと色々な取り組みをしております。それこそ県のMaOIさんともですね、色々連携をさせていただいたりしております。その中で、例えば野菜の残渣、キャベツの残渣なんか出るんですけども、それを魚の餌として育てたりもしております。また、ビールの会社から出る廃棄、こちら残渣になるんですけども、それを魚の餌にして活用しているっていうような取組もされています。また、そういった養殖以外にも、ダイビングといった学習内容がある。近くの海岸にダイバーが、生徒なんですけども、ダイビングで潜って、海底のゴミ、釣りのですとか、そういったもののゴミが海底にはあるものですから、そういったものも環境保全の一環として回収をしたり、また、食品加工会社さんとも連携をして、ふるさと納税の返礼品も開発したりですとか、本当に幅広い取り組みをしております。それらをまとめて、「魚国」という模擬会社の方も、生徒が主体的に運営をして実施をしているというような取組もあります。本当に幅広い取組をしております。以上です。

○西村委員

・地元の焼津漁港とも連携し、遠洋実習の代わりに港内での職業体験や水産加工ビジネスの実践などを強化しているのは面白いと思いました。

こういった取り組みは県内の他の先生方にも共有されているんでしょうか？

○事務局

・水産高校が県内に1校しかいないため、なかなか難しい状況です。例えば、農業高校や工業高校では集まりがあり、それぞれの研究内容や授業内容を共有する場がありますが、水産高校ではそういった機会がありません。ただし、全国の水産高校の私と同じ立場の者が集まる研修会もあるんですけども、そういった場所に行くと、やはり焼津水産高校は全国でも1学年5クラスの規模を誇る水産高校であり、焼津の取組

は県内では残念ながらあまり知られていませんが、全国的には本当に「焼津水産」というひとつのブランドとして評価されています。どのような取組をしているのかは、リアルタイムで共有し、毎年しております。

○西村委員

・実践的なプログラム作りは、農業・水産・商業など分野の違いを超えて共有できる内容だと思います。資料には「育成」「推進」など抽象的な言葉が多様されていますが、何をどう具体的にやるかを明確にすることが重要です。

焼津水産高校のような好事例を細かく分析して、他分野にも横展開できるようにしていくのが良いのでは。最後に、冒頭の説明は丁寧でありがたいですが、時間も限られているので、今後は論点を絞って、効率的なディスカッションとゴールを共有できるよう進めてください。

○村木委員

・続けて感想になるんですが、今、西村委員が言われたように、なかなか理解しづらい資料だと思ってまして。まとめ方としては、飯倉さん言われたような、ビジョン、ミッション、ストラテジーみたいな三角形でまとめていただけると理解しやすいかなというのは1つ思いました。

・それと、今、方向性を出されているので、具体的なものが出てきてないのは当然かなとは思いますが、これは、この後どういうタイムラインで、スケジュールでブレイクダウンして実践に落としていくのかなというところ。今、ここを出ただけですと、結構時間かかるかもってような気がしてまして。

・スピード感を持ってこれをやってかなきゃいけない中で、全部を一遍に進めていくのか、それとも優先的なものを選んでやっていかれるのか、そのあたりをどのようにお考えになっているのか、ちょっとお聞きしたいなと思いました。

○事務局

・本日、委員の皆様にご指摘いただきながら、非常に今迷走をしているところもあるんですけども、今回、我々はこの第2回の審議会で、これらの専門部会から出たものに対して妥当性があるかっていうところで図っていきかけたところなんですけれども、ただ、今ご意見いただいたところで、我々事務局の方で、今回いただいたご意見を基にまとめて、第3回冒頭にまとめた案について、1度、お示しさせていただきながら、またご意見をいただく。改めて、協議内容については、その後、ご意見いただくということで、今回のまとめは、次回に1度、委員の皆様方にご覧、その前にメール等で送らせていただきながら、ご指摘等いただきたいなと思っておりますけれども、そのような形で、審議内容までを、この形で、やりたいとは思っております。

・ただ、まとめ方等については、ご意見いただいたような形で、3回目以降、改善していければという風に思っております。

○上野委員

・さっきの事例の話で、ちょっと忘れられているのかもしれないので、一応申し上げますと、コロナ前の時に、県立大学、高校研究員っていうか、その当時の担当者の方から出していただいて、県立大学と付近の商業高校と連携して、結構、サマーセミナーみたいな感じで、集めてやろうみたいな感じで結構力を入れて、情報と会計に分けて、情報分野に行く人と会計に分けてやろうみたいな形。今でもリーダーシップのやつもやっている。また形は変えてやっているっていうことだとは思いますが、あの連携の形って結構よかつ

たなど。もう1回、私が汗を流してやるかどうかは置いておいて、他の方にいいかなとは思っているんですけど、その、結構大変で、がっちり、ゼミ形式で、PCに入って株価の分析させていくみたいな感じでやったりとか。あとは、座学みたいな感じプラス実習みたいな感じでやるみたいな形で、レクチャーとセミナーを2つやってほしいという形で、かなり多くの時間を使ってやったんですけど、そういった取組もしていましたし、商業の方も詳しいので、商業で申し上げると、結構やって、リーダーシップ教育とかもやっていた実績もあるので、なんかそういうのは多分、水産高校も含めて、事例集みたいなのを今までやってきた、前の答申でやってきたことに基づいてやっていたと思うので、前の時に何の成果があったのかなとか、事例集でもいいのであると、西村委員の疑問の中に答えられるのかなと。

・イメージが多分できていないので、私の方はイメージできてあるんですけど、多分そういうのが一貫して分かれると、情報集めて、これまで何やられていたか、それぞれやっぱり外でやられていたことっていうのはあると思うので、ぜひそれはなんか出していただくと、多分理解しやすいと思います。そういうのをもしお手間じゃなければまとめていただきたい。

・あと、私の商業の部分で言いますと、成果はどんなことやりましたかってヒアリングは私の方でオッケーで、もう1人の教授もいますけど、卒業生でも、実はどんな成果があったかっていうと、今卒業生で、その時に受けた卒業生が、今大学院に行って、アグリビジネスみたいなことをやりたいと、観光ビジネスがやりたいって言って今大学に行っているっていう子が1人。もう1人の子はすごく優秀だったんですけど、東京のベンチャービジネスで、そのヒューマン系のとこに行って、ベンチャービジネスを含めてやっている。いずれも静岡商業高校の優秀な元生徒さんでしたけど、そういった例えば載せられるぐらいの事例がありますので、その情報もし収集が必要でしたら、いつでも言っていたいただければ、こちらでコンタクトがありますので、言っていたいただければと思います。

(休憩)

○江頭委員

・私も、コメントというか感想も含めてなんですけど、ちょっと今日お伺いしていて手段の話が多くなって思ったんですね。例えば、農業ドローンだったりセンシングだったり、工業のロボティクスだったりもありますけど、これも手段の話であって、実際はこのカラーの資料はとっても上手にうまくわかりやすく作っていただいていると思うんで、例えば、基本的には、今の最新技術がどんなでどんなことができるのっていうデジタルリテラシーというか、何ができるのっていう基礎知識は多分どの部会でも一緒の部分で、それは元々のこの問題解決力ってありますけど、先ほど西村委員があった、現場では何が課題でどうしたらもっと良くなるんだろうっていうことは現場で学んで、さらに今のデジタル技術があればこんなことができるかもなっていうのがその次だと思うので、あまりちょっと手段には走らずに進めていくのがいいんじゃないかなと思ったのが1点。

・もう1点が、グローバル化っていうワードもあるんですけど、これ、どちらかというと外国から来た方への教育を提供するっていう風に下の破線のところを見て思ったんですけど、プラスどなたかが、委員から出たんですけど、グローバルで見ると非常に農業分野だったり水産分野、いろんなところがもっと進んでいる部分もあるので、世界を見回した時に広い視野でっていう1点では、グローバルで見てどんなことができるのか、どんな農業、どんな工業、どんな水産、全て含めてあるのかっていう視点を持つっていうところも重要じゃないかなと思うので、そういった機会を例えば先生、教員の皆さんに与えるなんていうのもあっていただくと感じました。

○奥田委員

・家庭と福祉を担当しています。

・私も感想になりますけれども、家庭と福祉に関しては、特に家庭に関する学科は県内 1 校しかないということなので、先生方がとても熱意を持って、こんなふうに教えられたら、もっといい教育ができるのについていう思いをすごく感じる対応策なんですけれども、全部はできないなっていう風に思うんですね。総花的になっていて、あれもこれもっていう風にとても考えていただいたことなんですけれども、多分、決められた人員とか予算とか年限の中で良くしていかなくちゃいけないってことを考えると、優先順位をつけられないといけないだろうなっていうのがすぐに感じたことです。

・この中で、現状でなんとかできるなと思ったのが、例えば、大学や企業との連携、交流っていうようなことは、比較的、大学側も求めているし、人材の欲しい事業も求めていることだと思いましたので、比較的早い段階で着手できそうなことだという風に感じました。

・でも、実際に、大学側から、高校さんにこういうことしませんかっていう風に持ちかけても、なかなかお忙しいっていうのがあるので、実現するのが、ちょっと今年度無理なので、来年ってなると、また来年、人が変わったって実現しないんですね。そういうところをもう少し密な交流ができるように、人的な交流もできるようにしていくっていうことが、まず最初に今できることなのかな。それを始めて、じゃあ来年度の予算に計上しますっていうことになるので、そういったことをしないと変わらないよっていうことをまずお互いが自覚して、認識して、なんとか進めていきたいねっていう合意形成をしていくことが先なのかなという風に感じました。でも、とてもやっていきたい、関わりたいなと思いましたので、私はですね、ぜひ部会の中に入れていただきたいです。実際にお話をお聞きしながら、どういう風に困っているんですかっていう話を聞きながら進めていければ、もっと本当に切迫したニーズはどれなのか、優先順位をつけていけると思いますので、そういう形で関わりを持てれば、こちらの方でも、福祉の高校に限らずですね、私、今、社会福祉学科におりますけれども、商業科からも農業科からも進学してきます。農業の高校で認知症カフェをやっていましたっていう子もいますし、商業のところでもボランティアで認知症の方も支援をして、福祉に興味を持ちましたっていう学生さんもいて、まだ高校生って何者にもなれる可塑性を持っていると思いますので、完全に決めた専門性を方向の中で教育するっていうよりは、次のステップにつなげるような可能性を開く教育っていう点で考えていければいいなという風に思いました。ありがとうございました。

○岸田委員

・ありがとうございます。産業界の方から少し話をさせていただきたいと思いますが、奥田委員がおっしゃったように、専門部会の方に入っていく方がいいのかなっていう感じがするぐらい、今回のまとめ方だと感じました。ただ、私も専門でないので、そちらは勘弁していただきたいと思うんですけども。

・ただ、やはり全体があまりにも、先ほどの手段もそうなんですけども、全部が入り込みすぎちゃって、だから説明を聞いているだけでアップアップしちゃうような、そんなような状況なので、もう少し体系的に今後のことを考えて作られたらどうかなっていうのがまずあります。

・それから、こちらの紙のところの 1 番上のところで、「県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成」と書いていただいている点ですが、私よりも西村さんがよくご存じだと思うんですけども、やはり商業も農業、水産業全て、工業もそうですけども、やはり経営、経営的な視点を持って勉強に励んでいただくということがすごく大事なのかなって思っています。

・高校の時に、おそらく幅広く農業も水産業もそうですけども、生産者から提供するところまで、そういうところ全て学ぶという理解をした上で、自分は何をやっているのかっていう、それがわかるような仕組みにして

いただくと、会社の方に入ってきていただいても非常に能力の高い社員になるのかと思います。例えばこの商業教育のゼネラリストの育成と、カッコいい言葉なんですけれども、例えば数字、この数字の持つ意味は一体なんだという、そういうところを深く理解をしていただかないと、多分会社に入ってきて、ただ經理の仕事をやっただけで終わってしまって、結局、会社の全体の中の何をやっているかわからない、ただ毎日毎日仕事しちやうしているだけっていう形になってしまう。そうならないような人材育成をしていただくと、多分東京方面で大企業に入るよりも、静岡県の中小企業に入って将来は経営やってみたいというようなですね、人材に育っていただけるんじゃないかなと期待をしています。

・それともう一つ、商業教育の課題の目指すべき姿のところなんですけども、AIやアルゴリズムによる判断に対して検証して、それに対して疑問を持ってやっけてくっていいと思います。ただ、弊社では人の言ったことに対して批判的なことは言わないように教育しています。目指すべき姿に批判的にという言葉が入っちゃうのはどうかなって感じがいたしました。ありがとうございました。

○新林委員

・学校の教員から見て、今色々なご意見あって、なるほどと思いました。

・各部会の共通的なもの、似たようなところの1つとして、ICTとかAIとかってというような情報技術のところが割と出ているのかなってことをまず思いました。けれども、それは各部会においても課題として考えており、かつ、各部会においても、自分たちが足りないことで助けてほしいなっていうようなところなんじゃないかなと思います。

・そういう意味で、それも含めて、産業界との連携とか、途中でございましたけれども、設備、備品とかってというような話も出てきましたけれども、その予算措置ってというような問題の他に、施設の共同利用とか連携、そこについての連携強化ってというようなところで考えていくってというようなところもございましたが、そういうような考え方もあるかなという風に思います。

○川田委員

・次第のところの4ページのところに書いてありますが、3番目ですね。本日の審議の方向性ということで、1番、目指すべき姿に挙げたり議題に対する方向性は妥当であるかということと、産業の改善の方向性はどうかということについて、皆さん、やっぱりここはこうだということをぜひご意見いただければと。

・全体的に、皆さん、いろんなことでこれについてのコメントいただいたと思うんですけど、もし追加でご意見がありましたらぜひお願いします。

・先ほどちょっと議論があると思うんですけども、この審議会でどこまで話をするのか。手段の本当に細かいところまで全部網羅してここで決めるってところなのか。審議会なのでもう少し上のレベルで話をさせていただいて、その手段とかそういう、こう細かいところはそれを元にこうやっけてくって話なのか。どこまでこの細かいところまでこの審議会でつっこんでいかなきゃいけないのか、ちょっとわかりにくいんですけど。私の理解としては、方向性を議論するのかなとは思っていますが。

○事務局

・専門部会で議論する内容については、専門分野ごとの細かな点が出てきています。先ほど皆様からご指摘いただいた通り、大きな方向性は実は同じなのではないかと思っています。そこで、今回このパワーポイントを用意し、中に共通するキーワードをまとめたものをお見せします。

・ただ、これにつきましては、先ほどの話にもありましたが、今の段階では一つの構想、つまり叩き台に過ぎ

ません。この資料にはいくつかのキーワードがありますので、これを見ながら最終的にどのような大きな方向性を目指していくのか、皆様にもご意見をいただきたいと思っております。

・前提として、この専門部会の議論は最終的な答申に反映されることとなります。細かい点に気がついた場合は、この場で議論していただければと思いますが、私たちとしては、大きな共通した方向性についての議論をこの場で行っていただきたいというのが一つメインです。さらに、専門部会の細かな点や設定についてもプラスアルファで議論があれば、ぜひいただきたいと考えております。

以上、よろしくお願いいたします。

○横田委員

・大きな方向性という意味では、これまで産業教育の中で専門の知識というのが非常に重要視されてきたところで、今の時代、応用力、問題解決力あるいは思考力というものが重視されるようになってきたというように受け取れました。

・実際のところ問題解決力をみんなに持ってほしいところはあるんですけども、全員が一律に高いレベルで問題解決力を持てるわけではないというのも現実です。その上で、コミュニケーション力とか、協働とか、協力というものをこの産業教育の中では、強く打ち出していった方がいいんじゃないかなということを私的には考えています。産業の現場では、協力体制というのが非常に重要になってきます。先ほどもマンパワーという話がありましたけれども、農業も含めて産業の現場では、単独で1人が能力を発揮するというよりは、多くの人が協力して力を発揮するところがあります。今回の方針の中ではメインにならないかもしれませんが、そういう側面も、方向性としては盛り込んでいただけるとよいのではないかと考えました。

○川田委員

・先ほどちょっとお話をさせていただきましたが、その4ページのところでですね。人材育成する方向性が妥当であるかということと、あと改善の方向性が妥当であるかということについて、皆さんコメントの中で色々言っていたかと思うんですけども、強調したり加えておきたいということがあればぜひお願いしたいと思えます。

・私から感想ということになってしまうんですけど、私が受けた印象としては、やっぱりどの分野もやっぱりデジタルかとか、いろんな課題っていうのは結構言っているのかなという印象を持っていて、それをうまく有機的に、接続できたらいいなという風、接続していくっていうことが今後求められることなのかな。今までは例えば工業だけとか、水産だったら水産だけとかいうような分かれているところを、なんかうまく連携できたらいいのかなという風には、ちょっと思いました。

・あと、ちょっと手段に陥っておられるとか、そういうご意見には私もその通りだなという風に思っていて。例えば、私なんか、工業のところなんですけど、この工業に書いてある課題っていうのは大学も同じ。大学の課題って言った時にも、工学部の課題としてあげる項目として問題かなと思った時に、ちょっと我々があれですよ、例えば工業高校の学生さんと工学部の学生さんの差はどこでつけるの、どこで差がつくのかなとか、そういうところがちょっと、だから工業高校の学生さんはここまでやりたいんだとか、なんかそういうところがあってもいいのかなとは、工業高校の学生さんと、大学で教えることの差っていうのは、ちょっと私自身よくわからないなっていう気がします。その辺は、もし明確にお持ちだったら、ぜひ先生方から教えていただきたいなっていうところはちょっと感じました。

○西村委員

・この元資料の元になっているディスカッションで、今誰がこのディスカッションに参加してるかってすごい大事だと思っていて、大体もう10年ジェネレーションですごくって、10歳違ふと全然感覚違ふんです。

・先生方の中ももうデジタルネイティブの先生たちがいると思うんですけど、その先生たちが持っている感覚と多分生徒が持っている感覚の方が全然近くて、で、こうなんだろう、AIのところもそうなんですけど、DXのところもそうなんですけど、多分、情報収集なんかも、多分、こちらが考えるこんな形で情報提供しようっていうよりも、はるかに若い世代の方が情報取りに行っていたりするので、どんな教育というか、人材を育成しようとかか、それに対してどういう情報提供してこうかっていうところの、そのディスカッションのしている先生方の年代が、バラエティーに富んでいるのかなっていうのは。

○事務局

・ご質問に関してですが、事務局の説明資料に記載されているメンバーは、24ページと25ページに示されています。

・西村委員からいただいたご意見やご質問についてですが、例えば採用から5年目までのような若手の教員は、入っておりません。経験豊富な方々として、30代後半から40代を中心に選ばれています。また、教員だけではなく、中に3人程度の一般企業の方も含めてディスカッションを行う形を取っています。

○西村委員

・ありがとうございます。先ほど齋藤先生がおっしゃっていた、要は教育を受ける側の目線というか、実際にこれから、高めていきたい側のリクエストというか、やっぱりその目線がなんとなく見えづらくなっていうのがあったので、ちょっとそこだけでもしてもらえたら。

○岸田委員

・先ほど、産官学の連携ってということで紹介したという風に思うんですけども、工業の12ページには産官学の連携コーディネーターの設置って書いてありますが、その他は大体先生がこういうことを勉強するような書き方をしています。今回のまとめ方としては、こういうコーディネート役を先生にやってもらう形で先生に能力を開発させるのか、あるいは工業高校のところに書いてあるようなコーディネーターみたいなものを別に設置してやっていくって方向なのか、方向がちょっと違うので、ここだけちょっと確認をさせていただきたいと思うのですが。

○事務局

・ただ、今のご意見についてですが、専門部会の中には教員の資質の一環としてコーディネーターの育成を明記しているところもあります。こういった点については、我々最終的には予算の話なども絡むため、慎重に検討する必要があります。

・現在の好事例として、浜松城北工業高校では、マイスターハイスクールとしてヤマハ発動機と連携し、3年間にわたり授業を行っています。この中では、浜松市内の団体の集まりを上手に活用し、講師を招くなどの工夫をしながら授業を進めてきました。こうした活用例を参考にし、外部からの協力を得られれば、学校の負担を軽減しながら計画を進めていけるのではないかと考えています。

○川田委員

・ありがとうございます。産業界の方も連携とってやっていきたいんですけども、実は、この窓口になるところ

はしっかりしていただかないと、我々がこう実はやっても、ああ、大学もそうなんですけども、結構逆に大変で、会員企業さん、もうやだって言っちゃうとかっていう形になっちゃうので、すごく大事なところかなっていう風に思います。

○飯倉委員

・基本、私も個人的には、どこに置くのかって結構重要だと思っていて、個人的にはやっぱり属人化すると結構難しくなっちゃうんじゃないかなっていうのがちょっと懸念はあります。

○村木委員

・最初の方で、もしかして議論があったかもしれないんですけども、目指すべき姿というものが、学生たちがこれから就職をするということを考えると、やっぱり企業が欲しがる人材に合わせていく必要があるのかなという風に思います。

・その視点が入っているかどうかということが多分最初の方の議論であったと思います。

・それと関連して、先ほど川田委員が、工学部の学生と工業高校の学生と目指す姿にどのように差をつけるかと言われていましたが、多分、大学生と高校生に求めることは、企業側から見ると違うと思うんですね。ですから、この問題も企業側の視点を入れると整理されるのかなという感じがしました。

4 閉会

○事務局

・今日いただいた御意見については、事務局の方で整理して、専門部会等で協議し、審議会の方に取り上げていきたいと思っている。

・今後、第3回審議会は6月30日を予定しています。